2　本多錦吉郎による美術教育の為の解剖学書について

島田　和幸
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 神経病学講座 人体構造解剖学

本多錦吉郎は嘉永 3 年（1850）12 月 2 日に芸州藩（現 広島県）の藩士であった本多房太郎の長男として生まれ，大正 10 年（1921）に没している．明治 4 年（1871）に上京し，慶応義塾で英学を学び，その後測量技術などを学んだ後に，以前より興味をもっていた洋画について國澤新九郎が開設していた洋画塾・彰技堂に入学して勉強を始める．なおこの洋画塾の主宰，國澤新九郎は土佐藩（現 高知県）からの官費留学生として 4 年間にわたり英国に留学後，帰国して洋画の教育，研究を広め，彰技堂を設立した人物である．しかし，明治 10 年（1877）に國澤が亡くなり，その後錦吉郎がその塾経営を受け継ぎ，場所を小石川区に移して，再び彰技堂を盛り上げる．錦吉郎本人も，“羽衣天女”（1890 年制作 兵庫県立美術館蔵），“景色”（1898 年制作 府中美術館蔵），などの代表作を残すが，洋画家よりもむしろ洋画教育・技法指導者として力を注ぎ，『油繪手引草』（明治 12 年，1879），『梯氏畫学教授法』（明治 12 年，1879），『小學畫手本』全 3 冊（明治 19 年，1886）や『人像畫法』と『畫學類纂』の書を残す．今回は西洋画の教育に用いられた錦吉郎の著書の中で解剖学に関係する『人像畫法』と『畫學類纂』の二冊の書について紹介する．『人像畫法』の譯述兼出版人は本多錦吉郎で発売書店は稲田佐吉の玉沽堂より明治 14 年（1881）に出版された縦×横 182×120 mm，総 49 ページよりなる人物の画き方の技法を記載した書である．そのオリジナルは C. H. Weigall の“Instruction in the Art of Figure Drawing”からの訳であることが本書の緒言より知ることができる．『畫學類纂』は明治 23 年（1890）に出版された 6 編 6 冊を，第一冊（巻一）は“礼氏絵事弁（上）”，“礼氏絵事弁（下）”と“油画山水訣”の 3 編を一冊に製本構成され，第二冊（巻二）は“形像原則”，“人躰解剖編”および“総事三要”の 3 編を一冊にまとめた書である．今回紹介するのはその第二冊（二巻）の“人躰解剖編”についての記載内容とその原本についてである．この正式な書名は“美術必携人躰解剖編”と云い，第二図（巻二）の全 261 ページ中の 95～163 ページの部分で総 68 ページより成っている．人物を画く際ノ線ノ事，人體ノ割合，全身ノ割合，臂ノ長サ，背後ノ幅，足，女體ノ割合，手，正面顔貌ノ割合，容貌之感動，悲愁喜悦，痛傷，忿怒，恐怖，輕侮，咲，輪郭ノ法，話人體摸寫ノ心得，結尾より構成されている．この書の原本は Henry Warren 著による Winsor & Newton 社のシリーズ No. 19“Artistic Anatomy of the Human Figure”の 1885 年版（Twenty-Fourth Edition）である．表表紙は黄色であり，サイズは縦×横 182×123 mm であり，London の Winsor & Newton, Limited より One Shilling で発売された芸術家向けの小冊子で全 72 ページよりなり，その後 40 ページは Winsor & Newton’s 社の 1885 年版の画材カタログなどが付加されている．なお本書は全 19 図の石版図を含む小冊子である．この二冊の書を使用して本多が西洋画の美術教育の中に解剖学の知識をとりいれた．明治期にすでに私塾でも画学教育に解剖学の知識を芸術家に教育していたことは特筆すべきことである．